

令和6年度
地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査
報告書のポイント

令和7年3月

株式会社マーケティング・コミュニケーションズ

調査概要

1. 調査の目的

急速に進行する少子高齢化や人口減少の中で、東京一極集中や地方における生産年齢人口の減少等の課題に対応するため、女性や若者にとって魅力的な地域づくりの取組を推進していくことが求められている。こうした状況の中、地域間で女性活躍・男女共同参画に関する取組の進捗状況に差異がみられる。また、地方では、「男性は仕事」、「女性は家庭」のいわゆる「昭和モデル」がいまだに残っていると指摘もある。地域ごとに女性を取り巻く状況（教育環境、就業・雇用環境、生活環境、固定的な性別役割分担意識等）も異なっているため、地域の実情を把握し、それに応じた形で全国各地における男女共同参画に関する取組を進めていく必要がある。

近年、若い女性が地方から都市へ転出する傾向が強くなっている。地方には女性にとって魅力的な仕事がないこと、都市に比べて労働条件が良くないこと、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みが根強く残っているため、若い女性が閉塞感を感じやすいことなどが原因と言われている。

他方、東京圏居住者における地方移住に対する関心が若い世代ほど高くなっていることや、地方の方が、結婚・子育てに必要な実感的な可処分所得と可処分時間が相対的に豊かであり、結婚・子育てがしやすいと考えられることなどは、地方の活性化につながる可能性もある。

若年女性の都市への転出超過は、若い世代において、地域における性別による人口の不均衡が発生し、少子化の要因の一つともなり、地域の活力が減少すると同時に、将来的には、日本全体の活力の減少につながる懸念される。地域がその活力を高めていくためにも、若い女性が定住したくなる環境を実現することが不可欠である。

地方の男女共同参画を推進し、地域の活力を向上させるような取組を推進することは、我が国の将来を見据えると、非常に重要な課題である。

こうした問題意識の下、都市と地方における若者・子育て世代を取り巻く状況などに関する意識を把握し、全国各地における男女共同参画推進に向けた取組の検討材料とする。

2. 調査検討委員会

本調査の実施に当たっては、有識者からなる調査検討委員会を設置し、開催した。

氏名	所属
【主査】山田 昌弘	中央大学文学部教授
小安 美和	株式会社Will Lab代表取締役
高見 具広	独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT)主任研究員

3. 調査方法・調査対象

調査方法	インターネット・モニターに対するアンケート調査 (株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象)
調査名	あなた自身に関する調査
調査対象	国内在住のインターネットパネル登録モニター(18歳以上39歳以下)

4. 調査期間

インターネット・モニター に対するアンケート調査	令和6年12月4日(水)～12月20日(金)
-----------------------------	------------------------

2. 地域別の基本属性と地域間の移動状況 調査結果まとめ

◆本調査におけるサンプル分布状況

1 本調査の回答者では、男女ともに「地方出身・地方居住層」が6割を占め、次に「都会出身・都会居住層」が26%、「地方出身・都会居住層」が1割強。

女性

男性

都会出身・
都会居住層

・30-39歳46%。既婚32%、子供がいる24%。
・「未婚/親と同居」48%、居住年数10年以上72%。
・正規雇用32%、学生16%。

・30-39歳46%。既婚23%、子供がいる17%。
・「未婚/親と同居」44%、「単独世帯」32%。
・正規雇用55%、学生12%。

地方出身・
都会居住層

・30-39歳51%。既婚46%、子供がいる30%。
・「単独世帯」45%、「夫婦と子供世帯」27%。
・正規雇用41%。学生11%。
・最終学歴「大学・短大等」は81%と女性で最も高い。

・30-39歳53%。既婚30%、子供がいる17.5%。
・「単独世帯」63%。
・正規雇用66%。学生7%。
・最終学歴「大学・短大等」86%。

地方出身・
地方居住層

・30-39歳49%。既婚41%、子供がいる31%。
・「未婚/親と同居」42%、居住年数10年以上62%。
・正規雇用30%、学生15%。
・最終学歴「大学・短大等」。

・30-39歳48.5%。既婚25%、子供がいる19%。
・「未婚/親と同居」46.4%、居住年数10年以上67%。
・正規雇用53%・企業規模1,000名以上の正規雇用18%は男性で最も低い。学生11%。
・「大学・短大等」が男性で最も低い。

都会出身・
地方居住層

・30-39歳59%。既婚60%、子供がいる40%。
・「夫婦と子供世帯」37%。
・正規雇用30%、学生9%。

・30-39歳53%。既婚49%、子供がいる37%。
・「単独世帯」43%、「夫婦と子供世帯」32%。
・正規雇用73%、学生6%。

【出身地域・現住地域の分布】



【基本属性一覧】

※薄黄色色掛けセルは特徴的に高い項目、薄グレー色掛けセルは特徴的に低い項目

※「企業規模1,000名以上の正規雇用者労働者」は、雇用されている人（非正規雇用労働者を含む）、もしくは会社役員に占める割合

	女性				男性			
	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層
1 30-39歳	45.5%	51.2%	48.8%	59.0%	45.7%	52.8%	48.5%	53.0%
2 既婚 (離別・死別を含む)	32.3%	46.0%	41.1%	59.5%	23.4%	29.5%	24.9%	48.9%
3 子供がいる	24.4%	29.7%	31.0%	39.5%	17.0%	17.5%	19.0%	36.5%
4 居住年数 10年以上	71.7%	17.6%	62.4%	19.0%	69.8%	22.6%	67.3%	19.2%
5 ①最も多い世帯類型 ②次に多い世帯類型	①未婚/親と同居 ②夫婦と子供	①単独世帯 ②夫婦と子供	①未婚/親と同居 ②夫婦と子供	①夫婦と子供 ②単独世帯	①未婚/親と同居 ②単独世帯	①単独世帯 ②夫婦と子供	①未婚/親と同居 ②単独世帯	①単独世帯 ②夫婦と子供
6 最終学歴 大学・短大・専門学校等	69.5%	81.4%	58.9%	73.5%	75.8%	85.9%	62.7%	79.9%
7 正規雇用労働者	32.1%	40.9%	30.2%	30.0%	55.4%	65.5%	53.1%	73.1%
8 学生	15.9%	10.8%	15.3%	9.0%	12.2%	7.2%	11.0%	6.4%
9 企業規模1,000名以上の 正規雇用者労働者※	13.6%	15.9%	8.8%	15.7%	21.7%	28.2%	17.5%	27.7%

3. 都会と地方の現状と魅力 調査結果まとめ

◆現住地域に住むようになったきっかけ

1 女性の地方出身・都会居住層は「進学」が24%、次いで「結婚」「就職」。
男性の地方出身・都会居住層は「就職」が27%、次いで「進学」「自分の転職」。

2 女性の都会出身・地方居住層は「結婚」が28%、次いで「進学」「親の都合」。
男性の都会出身・地方居住層は「就職」が21%、次いで「結婚」「自分の転職」。

【現住地域に住むようになったきっかけ】

→報告書中39ページ掲載

	女性		男性	
	地方出身・都会居住層	都会出身・地方居住層	地方出身・都会居住層	都会出身・地方居住層
1位	自分の進学：23.8%	自分の結婚：27.5%	自分の就職：26.6%	自分の就職：20.5%
2位	自分の結婚：19.4%	自分の進学：13.5%	自分の進学：19.6%	自分の結婚：16.0%
3位	自分の就職：17.1%	親の都合：12.0%	自分の転職：9.9%	自分の転職：14.2%

◆現住地域や現在の仕事に満足しているか

1 全体的に都会居住層の女性で満足(計)が高く、総合満足度も8割。特に「仕事の選択肢の豊富さ」は、都会居住層の女性と地方居住層の女性で満足している人の割合の差が大きい。

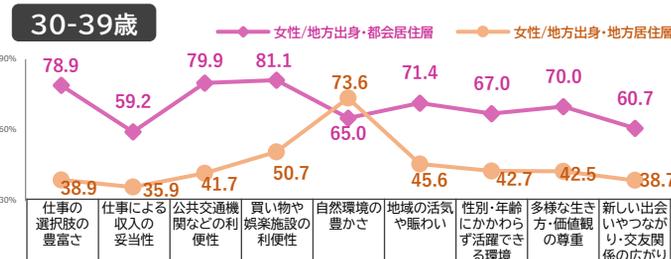
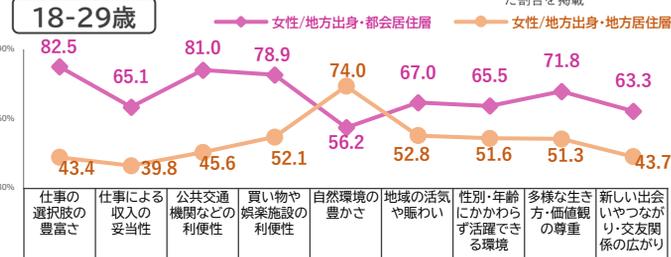
2 地方出身・都会居住層の女性と地方出身・地方居住層の女性で満足している人の割合の差が大きい項目は、下記の3項目。①仕事・仕事の選択肢の豊富さ、収入の妥当性 ②利便性・公共交通機関、買い物や娯楽施設 ③多様な価値観等の尊重・性別・年齢にかかわらず活躍できる環境、多様な生き方・価値観の尊重。特に多様な価値観等の尊重の差は、30-39歳で大きい。

3 仕事については、女性有業者では、地方居住層に比べて都会居住層で満足している人の割合が高い項目が多く、特に「ワーク・ライフ・バランス」の差が大きい。

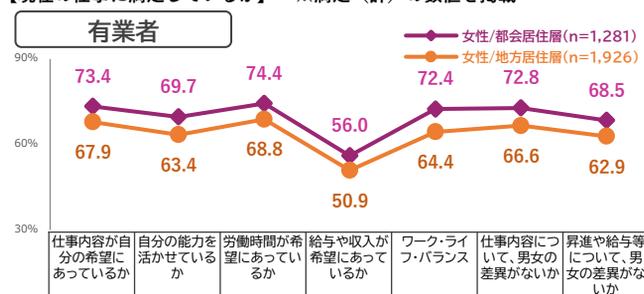
→報告書中42~43、46~47、56ページ掲載

- 現住地域別にみると、全体的に女性/都会居住層で満足(計)の割合が高い傾向にあり、総合満足度も8割と高い。
- 「公共交通機関などの利便性」「仕事の選択肢の豊富さ」は、都会居住層の男女では7~8割、地方居住層の男女では4割と特に差がある。
- 地方出身層の女性で比較すると、「自然環境の豊かさ」以外の全ての項目で、地方出身・都会居住層の方が高い。特に差が大きい項目は、「仕事の選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「買い物や娯楽施設の利便性」「仕事による収入の妥当性」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「多様な生き方・価値観の尊重」。
- 地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層の女性で比較すると、18-29歳の結果と比べ、30-39歳で差が大きい項目は、「多様な生き方・価値観の尊重」、「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」、「地域の活気や賑わい」。
- 「現在の仕事に満足しているか」について、女性有業者で比較すると、ほとんどの項目で地方居住層よりも都会居住層の方が満足(計)の割合が高く、特に「ワーク・ライフ・バランス」では8.0%ポイントの差がある。

【現住地域に満足しているか】 ※満足(計)の数値を掲載 ※分母から「わからない」と答えた人を除いた割合を掲載



【現在の仕事に満足しているか】 ※満足(計)の数値を掲載



4. 若年層の転居の背景や希望する生き方 調査結果まとめ

◆自分の都合による出身地域からの転居経験の有無

1 「自分の都合での転居」の経験がある人の割合は、男女ともに**都会出身者よりも、地方出身者の方が高い**。地方出身者の転居先をみると、「**都会へ転居**」が、男女とも**2割程度**。

2 都会出身者の転居先も、「**都会へ転居**」が**14%程度**。
いずれの区分でも**転居先は「都会」>「地方」**。

→報告書中61ページ掲載

- 自分の都合による転居経験の有無をみると、都会出身層、地方出身層のいずれも「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」割合が最も高い。
- 男女ともに、地方出身層よりも、都会出身層の方が「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」割合が高い。

【自分の都合での転居経験】

※選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
「自分の都合での転居」経験あり	29.5%	37.3%	30.5%	37.8%
都会へ転居	13.8%	20.2%	13.5%	18.4%
地方へ転居	7.8%	9.2%	9.6%	10.9%

◆自分の都合で出身地域を離れた理由

1 **全ての区分で「希望する進学先が少ない」が最も高く、特に自分の都合で「都会へ転居」した女性で高い**。他に「**やりたい仕事や就職先が少ない**」も高く、**希望する進学先・就職先の不足が二大理由**。

2 女性は「**都会へ転居**」「**地方へ転居**」ともに「**地元から離れたかったから**」が上位3位に入っている。

→報告書中63ページ掲載

【自分の都合で出身地域を離れた理由】

	女性		男性	
	都会へ転居	地方へ転居	都会へ転居	地方へ転居
1位	希望する進学先が少なかったから：35.0%	希望する進学先が少なかったから：23.8%	希望する進学先が少なかったから：29.2%	希望する進学先が少なかったから：24.6%
2位	やりたい仕事や就職先が少なかったから：22.6%	地元から離れたかったから：15.7%	やりたい仕事や就職先が少なかったから：21.9%	学校や職場に通いづらかったから：16.8%
3位	地元から離れたかったから：20.7%	学校や職場に通いづらかったから：14.3%	学校や職場に通いづらかったから：16.1%	やりたい仕事や就職先が少なかったから：14.0%

◆大学等への進学検討時の希望地域

1 都会出身層では、男女ともに**4割が「当時住んでいた地域(都会)の学校」**を挙げる。地方出身層では、男女ともに「**当時住んでいた地域(地方)の学校**」は**2割程度**と低い。

2 地方出身層では、男女ともに「**当時住んでいた地域以外の都会の学校**」が最も高い。また「**進学する地域にこだわりはなかった**」は、出身地域に限らず、**男性よりも女性の方が低い**。

→報告書中66ページ掲載

- 出身地域別にみると、男女ともに都会出身層では、「当時住んでいた地域(都会)の学校」が36%程度と高い。地方出身層では、男女ともに「当時住んでいた地域以外の都会の学校」が高く、女性で30.4%、男性で24.6%。
- 都会出身層の方が、「当時住んでいた地域(都会)の学校」を挙げる割合が高く、地方出身層の方が、「当時住んでいた地域(地方)の学校」を挙げる割合が高い。

【進学検討時の希望地域】

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
当時住んでいた地域(都会)の学校	35.6%	11.9%	36.9%	13.9%
当時住んでいた地域(地方)の学校	12.9%	20.6%	10.4%	17.6%
当時住んでいた地域以外の都会の学校	19.8%	30.4%	14.2%	24.6%
当時住んでいた地域以外の地方の学校	7.0%	13.2%	5.5%	12.2%
進学する地域にこだわりはなかった	32.1%	32.0%	39.9%	40.2%

4. 若年層の転居の背景や希望する生き方 調査結果まとめ

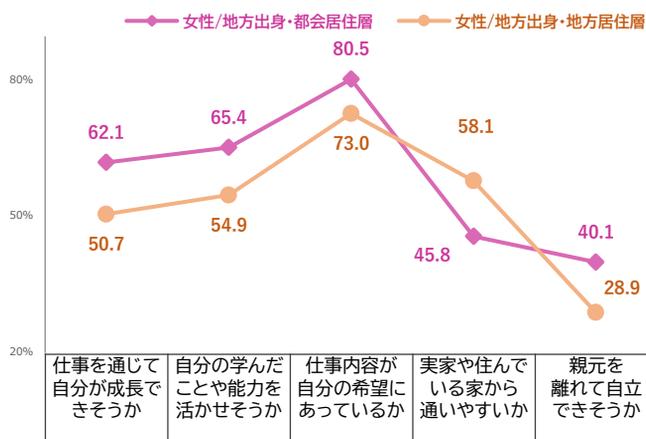
◆仕事に就くに当たって重視したこと(就業経験のある人)

1 多くの項目で「重視した(計)」の割合は女性の方が高く、
地方出身層よりも都会出身層の方が高い傾向。

2 地方出身・都会居住層と地方出身・地方居住層の女性で、「重視した(計)」の差が大きい項目は、
地方出身・都会居住層の方が高い・「仕事を通じて自分が成長できそうか」
「自分の学んだことや能力を活かせそうか」「仕事内容が自分の希望にあっているか」
「親元を離れて自立できそうか」等。
地方出身・地方居住層の方が高い・「実家や住んでいる家から通いやすいか」等。

→報告書中74ページ掲載

【仕事に就くに当たって重視したこと】(就業経験のある人)
※重視した(計)の数値を掲載



- 「重視した(計)」の割合は、多くの項目で、男性よりも女性の方が高く、地方出身層よりも都会出身層の方が高い傾向がみられた。
- 地方出身・都会居住層の女性と地方出身・地方居住層の女性を比較すると、「仕事を通じて自分が成長できそうか」「自分の学んだことや能力を活かせそうか」等は地方出身・都会居住層の方が高い。一方、「実家や住んでいる家から通いやすいか」等は地方出身・地方居住層の方が高い。

◆今後、結婚したいか(独身者)

1 「結婚したい(計)」は、男女ともに地方出身・都会居住層、都会出身・地方居住層で高い傾向にあり、
女性で6割、男性で4割。

2 結婚後は、男女ともに地方出身・都会居住層で、「自分の地元に住みたい」が低く、「自分や配偶者の親や地元に関係なく考えたい」が高い⇨地元に住みたくない傾向がうかがえる。

→報告書中76,79ページ掲載

【今後、結婚したいか/結婚したらどのように住みたいか】

		対象:独身者		対象:結婚意向がある人		
		結婚したい(計)	結婚したいとは思わない(計)	自分の地元に住みたい	自分の親の近くに住みたい	自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい
女性	都会出身・都会居住層	49.5%	26.4%	33.7%	31.9%	16.5%
	地方出身・都会居住層	57.4%	21.3%	22.2%	20.6%	25.8%
	地方出身・地方居住層	45.6%	26.5%	31.2%	26.8%	15.2%
	都会出身・地方居住層	58.5%	23.2%	35.4%	29.2%	20.8%
男性	都会出身・都会居住層	36.5%	27.5%	36.3%	16.4%	16.7%
	地方出身・都会居住層	41.9%	25.1%	21.9%	15.4%	23.1%
	地方出身・地方居住層	36.4%	27.7%	36.6%	17.7%	15.2%
	都会出身・地方居住層	43.2%	20.7%	29.2%	16.7%	18.8%

- 結婚意向をみると、女性では都会出身・地方居住層、地方出身・都会居住層で「結婚したい(計)」が6割と高い。一方、地方出身・地方居住層では45.6%と最も低い。男性でも同様の傾向がみられた。
- 結婚したらどのように住みたいかについて、地方出身・都会居住層の女性では、「自分の地元に住みたい」「自分の親の近くに住みたい」が他の区分に比べて低く、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が高い。男性でも同様に、地方出身・都会居住層では、「自分の地元に住みたい」が低く、「自分や配偶者の親が住んでいる場所や地元に関係なく考えたい」が高い。

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差 調査結果まとめ

◆出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無

1 固定的な性別役割分担意識等の有無を出身地域別にみると、「あった」と感じている割合は、全ての項目で**地方出身層の女性が最も高く、最も目の当たりにしていた**と言える。

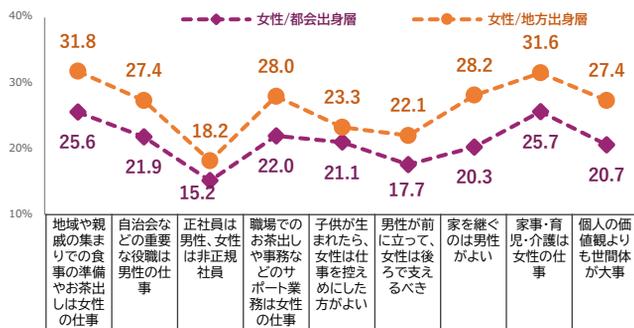
2 女性についてみると、「家を継ぐのは男性がよい」「個人の価値観よりも世間体が大事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」「家事・育児・介護は女性の仕事」で、特に地方出身層の方が高い。

3 地方出身層では、全ての項目で「女性>男性」で、その差が大きい≡男性はそれらの言動を目にしても気づかなかった(気にしていなかった)・意識していなかったとも考えられる。特に男女差は、30-39歳で顕著で、18-29歳ではやや小さい。

→報告書中85～86ページ掲載

【女性・出身地域別比較】

※あった(計)の数値を掲載



【地方出身層・男女年代別比較】

※あった(計)の数値を掲載

30-39歳女性	37.4%	30.6%	21.8%	33.9%	26.9%	26.0%	33.2%	37.3%	31.8%
30-39歳男性	25.8%	22.4%	16.0%	21.5%	18.9%	18.1%	23.1%	22.9%	21.7%
18-29歳女性	26.4%	24.3%	14.8%	22.3%	19.8%	18.2%	23.3%	26.1%	23.1%
18-29歳男性	18.6%	19.5%	13.0%	15.8%	16.4%	14.4%	17.5%	17.0%	16.9%

◆現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無

1 固定的な性別役割分担意識等の有無を現住地域別にみると、「ある」と感じている割合は、全ての項目で**地方居住層の女性が**高いが、地域差は「出身地域」よりは小さい。

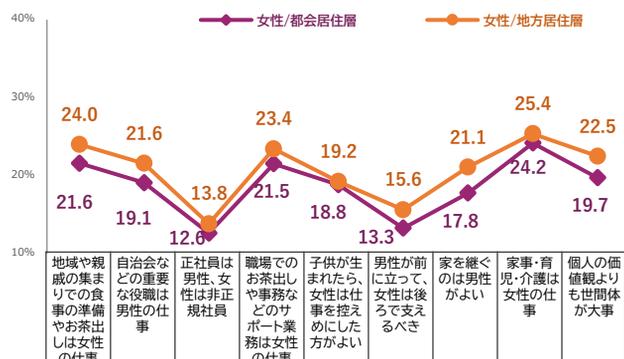
2 地方居住層では、全ての項目で「女性>男性」で、現住地域でも差は大きい。特に30-39歳では、「家事・育児・介護は女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」で差が大きい。30代の男性は現在も気づいていない可能性が示唆される。

3 地方居住層の女性についてみると、ほとんどの項目で「30-39歳」>「18-29歳」。「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」で最も差がある。

→報告書中89～90ページ掲載

【女性・現住地域別比較】

※ある(計)の数値を掲載



【地方出身層・男女年代別比較】

※ある(計)の数値を掲載

30-39歳女性	25.8%	23.7%	14.6%	26.1%	20.6%	15.6%	21.8%	26.8%	23.0%
30-39歳男性	17.0%	19.4%	11.6%	16.7%	14.3%	10.6%	17.5%	14.9%	17.7%
18-29歳女性	22.2%	19.5%	13.1%	20.8%	17.9%	15.7%	20.4%	24.0%	22.0%
18-29歳男性	15.3%	16.5%	10.4%	14.1%	13.1%	11.7%	15.0%	13.9%	16.2%

5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差 調査結果まとめ

◆大学等への進路の検討に関する自分の意見(出身地域別)

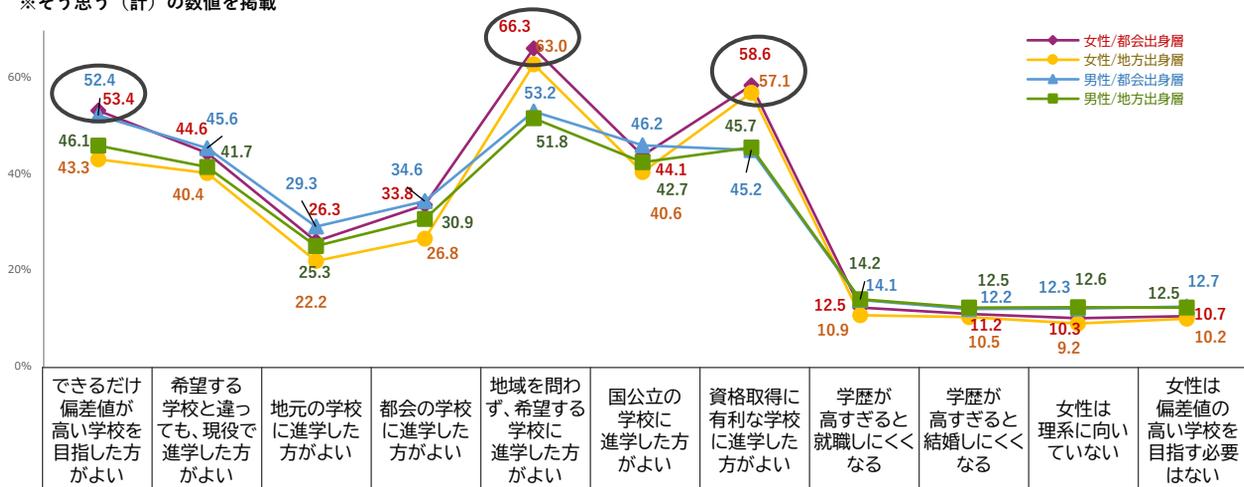
1 「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」は、出身地域にかかわらず女性の方が高い。

2 「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」は、男女ともに都会出身層の方が高い。

→報告書中99ページ掲載

【大学等への進路検討に関する自分の意見】

※そう思う(計)の数値を掲載



◆大学等への進路の検討に関する自分の意見(進学希望地域別)

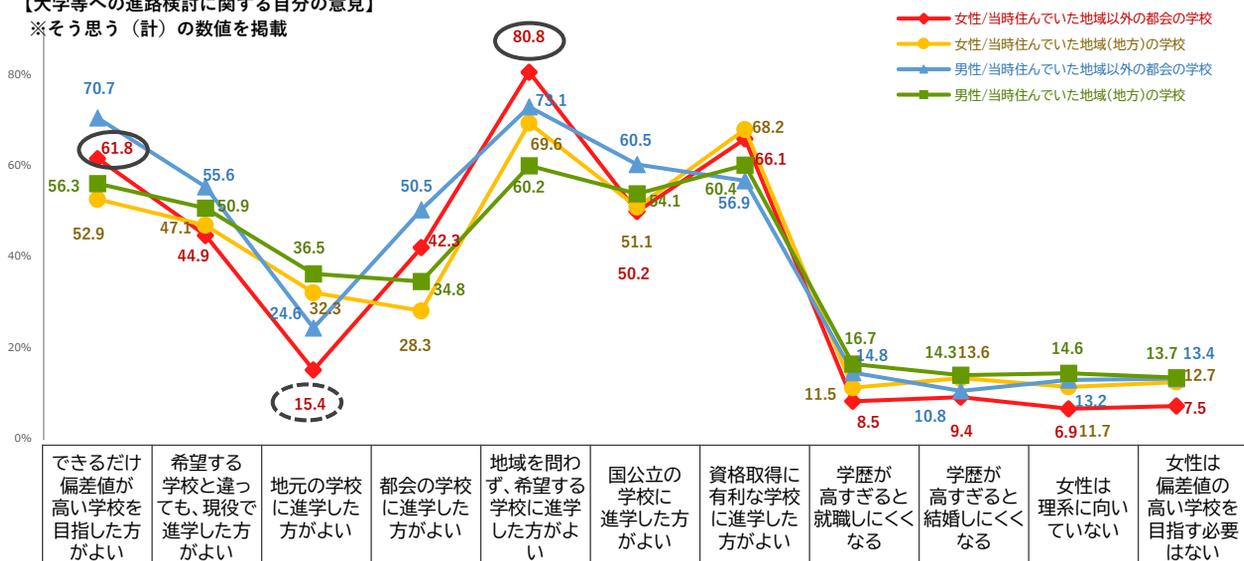
1 当時住んでいた地域以外の都会の学校を希望していた女性は、「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」が高く、「地元の学校に進学した方がよい」が低い。
 ⇒地域に縛られず、高いレベルの進学先をより意識していたことがうかがえる。

2 「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」は、男女ともに当時住んでいた地域以外の都会の学校を希望していた人の方が高い。

→報告書中100ページ掲載

【大学等への進路検討に関する自分の意見】

※そう思う(計)の数値を掲載



5. 固定的な性別役割分担意識等の地域差 調査結果まとめ

◆仕事の検討時の自分の意見(出身地域別)

1

自分の意見について、「安定した仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」等は、出身地域にかかわらず女性の方が高い。

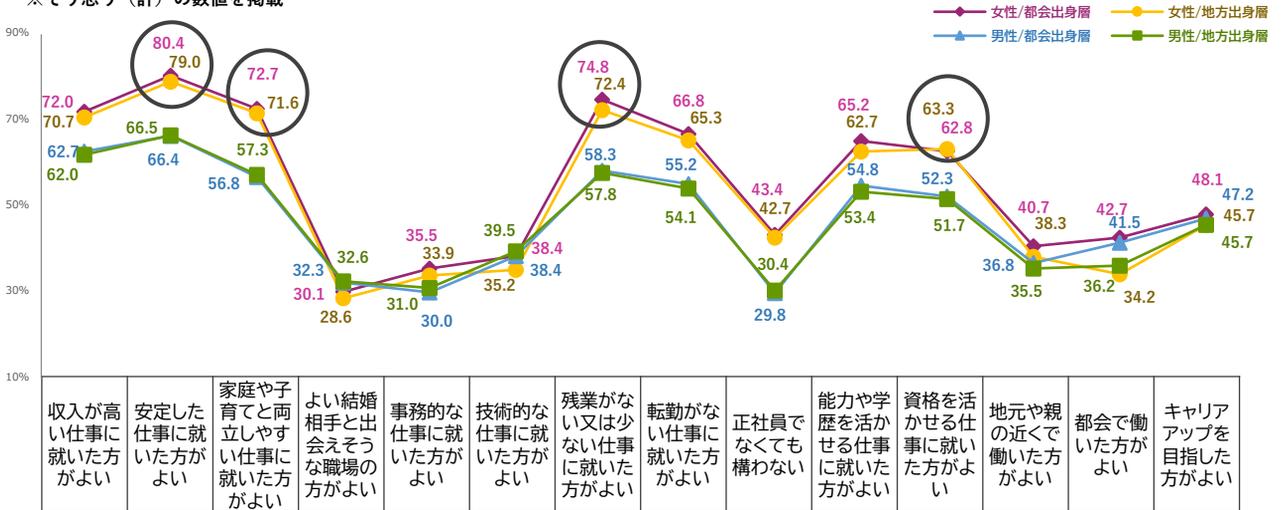
2

「家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」等は、女性では出身地域にかかわらず7割を超え高く、男性との差が大きい。

→報告書中105ページ掲載

【仕事の検討に関する自分の意見】

※そう思う(計)の数値を掲載



◆仕事や就職先の検討時に関する自分の意見(地方出身層)

1

地方出身・都会居住層の女性では、「収入が高い仕事」「安定した仕事」「家庭や子育てと両立しやすい仕事」「残業がない・少ない仕事」が8割を超えて高い。
自分の能力を活かした仕事や高い収入を得ること、キャリアアップ、仕事と家庭との両立をより意識していることがうかがえる。

2

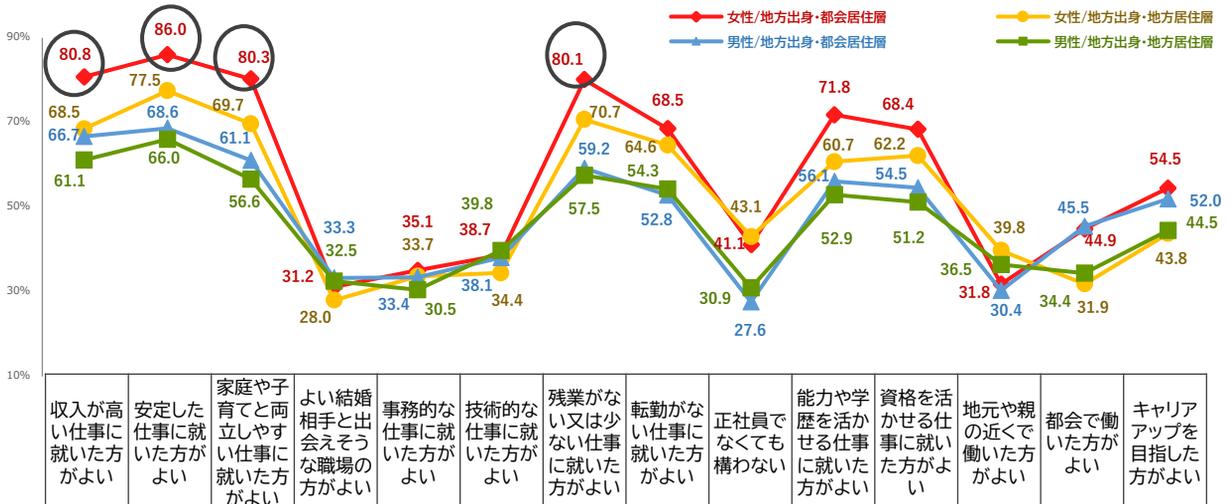
「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」「都会で働いた方がよい」「残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい」等は、地方出身・都会居住層の方が高い。

→報告書中106ページ掲載

【仕事の検討に関する自分の意見】

地方出身層

※そう思う(計)の数値を掲載



6. 若年層の今後の居住地への希望 調査結果まとめ

◆将来、住みたい地域

1 「現在住んでいる地域に住み続けたい」は、男女ともに、**都会出身・都会居住層**で6割程度と高い。都会出身・地方居住層は「現在住んでいる地域に住み続けたい」が他の区分と比べて低い。

2 **地方出身・都会居住層**では、男女ともに現在住んでいる地域以外に住みたい(計)がやや高い。また、「中学校卒業時点で住んでいた地域に住みたい」は1割程度と、「都会に出たが、出身地域に戻りたい」人も一定数いる。

→報告書中108ページ掲載

【将来、住みたい地域】

	女性				男性			
	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層	都会出身・都会居住層	地方出身・都会居住層	地方出身・地方居住層	都会出身・地方居住層
現住地域に住み続けたい	55.8%	43.6%	47.2%	33.0%	55.6%	41.9%	49.2%	40.6%
現在住んでいる地域以外に住みたい(計)	16.1%	23.8%	19.1%	34.0%	11.6%	21.4%	16.2%	27.9%
中学校卒業時点で住んでいた地域に住みたい	3.9%	10.8%	4.6%	14.5%	2.7%	7.0%	3.0%	15.1%
過去に住んだことのない地域(国内/都会)	7.1%	5.4%	7.9%	7.5%	4.2%	7.2%	7.2%	5.0%
過去に住んだことのない地域(国内/地方)	1.9%	1.8%	3.0%	1.5%	1.7%	1.4%	2.6%	3.2%

※選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

◆将来、出身地域に住みたい理由と、住むに当たって不安に思うこと

1 将来、出身地域に住みたい理由は、**女性**では出身地域にかかわらず、「**親や兄弟姉妹の居住地と近いから**」が最も高い。地方出身層では男女ともに「**ゆとりのある暮らしができそう**」「**自然環境が豊か**」も高い。

2 出身地域に住む(帰る)に当たり不安に思うことについて、**女性**は「**収入や生活費などの経済面での不安**」、**男性**は「**希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか**」が最も高い。

3 地方出身層では、男女ともに「**買い物や公共交通機関などの利便性への不安**」も高い。

→報告書中112,114ページ掲載

【将来、出身地域に住みたい理由】

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
1位	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：46.8%	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：46.9%	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：30.9%、 公共交通機関などの利便性が高いから：30.9%	ゆとりのある暮らしができそうだから：28.2% 親や兄弟姉妹の居住地と近いから：24.4%
2位	公共交通機関などの利便性が高いから：36.7%	ゆとりのある暮らしができそうだから：33.7%	公共交通機関などの利便性が高いから：30.9%	親や兄弟姉妹の居住地と近いから：24.4%
3位	買い物や娯楽施設の利便性が高いから：32.9%	自然環境が豊かだから：26.5%	ゆとりのある暮らしができそうだから：29.4%	自然環境が豊かだから：21.4%

【出身地域に住むに当たって不安に思うこと】

	女性		男性	
	都会出身層	地方出身層	都会出身層	地方出身層
1位	収入や生活費などの経済面での不安：36.7%	収入や生活費などの経済面での不安：37.8%	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：41.2%	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：35.1%
2位	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：25.3%	希望する内容の仕事に就けるか・続けられるか：30.6%	働き方の柔軟性がある仕事に就けるか・続けられるか：27.9%、 収入や生活費などの経済面での不安：27.9%	収入や生活費などの経済面での不安：26.0%
3位	仕事と子育てを両立できるか：22.8%、 買い物や公共交通機関などの利便性への不安：22.8%	買物や公共交通機関などの利便性への不安：27.6%	収入や生活費などの経済面での不安：27.9%	働き方の柔軟性がある仕事に就けるか・続けられるか：22.1%
4位	買い物や公共交通機関などの利便性への不安：22.8%	仕事と子育てを両立できるか：22.4%	仕事と子育てを両立できるか：20.6%	買物や公共交通機関などの利便性への不安：18.3%

第3章 分析視点別結果

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題 調査結果まとめ

I. 進学・仕事の検討に関して、周囲の人から言われたことと自分の意見の関係

- 1 性別や出身地域にかかわらず、大学等の進学や仕事の検討に関する様々な意見について、親や家族、先生などの周囲の人から言われた人と、言われていない人を比べると、**周囲の人から言われた人の方が、自分でも「そう思う」とする割合が顕著に高い。**
- 2 進学に関してみると、**女性では、都会出身者・地方出身者ともに、「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「女性は理系に向いていない」「学歴が高すぎると結婚しにくくなる」「学歴が高すぎると就職しにくくなる」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」等の意見については、周囲の人から言われた人の方が、自分でも「そう思う」とする割合が50%ポイント程度高い。**
- 3 仕事の検討に関してみると、**女性では、都会出身者・地方出身者ともに、「よい結婚相手と出会えそうな職場の方がよい」「都会で働いた方がよい」「技術的な仕事に就いた方がよい」「事務的な仕事に就いた方がよい」については、周囲の人から言われた人の方が、自分でも「そう思う」とする割合が40%ポイント程度高い。また、都会出身の女性では、「地元や親の近くで働いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」という意見も、40%ポイント以上高い。**

→報告書中123～130ページ掲載

POINT

- ◆周囲の人からの声かけは、若い世代の進学先や仕事の検討に、大きく影響している。
- ◆特に、「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「女性は理系に向いていない」など、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みを感じさせる声かけが、特に若い女性本人の意識に大きく影響している。
- ◆他方で、「できるだけ偏差値の高い学校を目指した方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」などの前向きな声かけも、本人の意識に大きく影響している。

II. 女性や若者が地元を離れたと思う要因

- 1 自己都合で出身地域を離れた女性や若者のうち、出身地域を離れた理由として「地元から離れたかったから」を理由に挙げた人は、「親や周囲の人の干渉から逃れたかったから」「若者が楽しめる場所や施設が少なかったから」「出会いやチャンスが少なそうだったから」も同時に出身地域を離れた理由として挙げる割合が高い。女性は「多様な価値観が受け入れられなそうだったから」も高い。
- 2 「地元から離れたかったから」を選んだ女性は、出身地域において「個人の価値観よりも世間体が大事」「家事・育児・介護は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「家を継ぐのは男性がよい」といった意識があったと感じている割合が顕著に高い。

→報告書中132～134ページ掲載

POINT

- ◆進学や就職が、若い世代が出身地域を離れる大きなきっかけや理由である一方、固定的な性別役割分担意識や伝統的価値観が残る地元生きづらさを感じて、女性や若者が都会へと転出していることがうかがえる。

2. 地域ブロック別にみた特徴 調査結果まとめ

I. 現住地域に満足しているか

1

総合満足度で現住地域に満足している割合が最も高いのは、男女ともに「南関東(東京圏)」、次いで、「東海」。女性では次に「近畿」、男性では次に「北海道」。逆に最も低いのは、女性は「四国」、男性は「東北」。

2

項目別にみると、「南関東(東京圏)」では、仕事の選択肢の豊富さ、収入の妥当性、生活上の利便性、性別や年齢にかかわらず活躍できる環境、多様な価値観の尊重、新しい出会いやつながりなど、多くの項目で満足度が高い。

3

女性では、「南関東(東京圏)」に次いで、「東海」「近畿」で満足している割合高い傾向だが、「仕事の選択肢の豊富さ・収入の妥当性」「公共交通機関などの利便性」「多様な価値観の尊重」などは、「南関東(東京圏)」に比べて低い。

→報告書中143～145ページ掲載

【現住地域の総合満足度】

※満足(計)の数値を掲載。

	総合満足度(満足計)	
	女性	男性
全国	67.0%	60.2%
北海道	60.0%	60.5%
東北	51.6%	43.2%
南関東(東京圏)	75.5%	68.9%
北関東・甲信	55.9%	53.7%
北陸	54.7%	56.7%
東海	70.4%	60.9%
近畿	68.1%	59.9%
中国	66.4%	48.0%
四国	44.3%	50.3%
九州・沖縄	66.2%	56.7%

POINT

◆女性では、三大都市圏で総合満足度、項目別満足度ともに高い傾向。しかし、「仕事」「生活上の利便性」「多様な価値観の尊重」については、東海や近畿でも東京圏との差が確認された。

4

女性において、総合満足度で満足している割合が最も低かった「四国」では、「公共交通機関などの利便性」「仕事による収入の妥当性」「仕事の選択肢の豊富さ」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「新しい出会いやつながり」で満足している割合が特に低い。「南関東(東京圏)」と比べると、特に仕事の選択肢や収入、生活上の利便性、性別や年齢にかかわらず活躍できる環境について差が大きい。

5

男性において、総合満足度で満足している割合が最も低かった「東北」では、「新しい出会いやつながり等」「仕事の収入の妥当性・選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「地域の活気や賑わい」の満足度が特に低い。「南関東(東京圏)」と比べると、特に仕事の選択肢・生活上の利便性について満足度の差が大きい。

→報告書中143～145ページ掲載

【女性における項目別満足度】

※四国で満足(計)が低い項目を掲載。
※四国-南関東(首都圏)で30%ポイント以上差がある項目を黄色色掛け。

	女性	
	四国	南関東(東京圏)
公共交通機関などの利便性	27.2%	73.7%
仕事による収入の妥当性	26.8%	58.6%
仕事の選択肢の豊富さ	26.3%	69.2%
性別・年齢にかかわらず活躍できる環境	31.4%	62.3%
新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	34.1%	57.7%
総合満足度	44.3%	75.5%

【男性における項目別満足度】

※東北で満足(計)が低い項目を掲載。
※東北-南関東(首都圏)で30%ポイント以上差がある項目を黄色色掛け。

	男性	
	東北	南関東(東京圏)
新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	29.5%	51.7%
仕事の選択肢の豊富さ	30.7%	66.1%
公共交通機関などの利便性	33.2%	69.1%
地域の活気や賑わい	33.3%	60.1%
仕事による収入の妥当性	33.6%	58.2%
総合満足度	43.2%	68.9%

POINT

◆男女ともに、現住地域の総合満足度が低い地域では、特に「仕事」「生活上の利便性」において東京圏との差が大きい。また女性では「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」についても満足度の差が大きい点は、注目すべき要素である。

3. 東京圏への転出者の特徴 調査結果まとめ

I. 東京圏への転出のきっかけ・理由

- 1 東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している人が、現住地域に住むようになったきっかけは、男女ともに「**進学**」「**就職**」が高い。加えて女性では「**結婚**」も高い。
- 2 東京圏以外出身で、自分の都合で出身地域を離れた経験がある人に着目すると、男女ともに「**希望する進学先が少なかった**」「**やりたい仕事や就職先が少なかった**」と、**進学・就職**が出身地域を離れた大きな理由。加えて女性では、「**地元から離れたかったから**」も大きな理由となっている。
- 3 女性は男性に比べて「**希望する進学先が少なかった**」「**地元から離れたかった**」「**親や周囲の人の干渉から逃れたかった**」が高く、男性は女性に比べて「**仕事と結婚生活・子育てを両立できなそうだった**」「**性別を理由に活躍できなそうだった**」が高い。

→報告書中159～160ページ掲載

POINT

- ◆男女ともに、**進学・就職**が東京圏への転出の大きなきっかけとなっていることがうかがえる。
- ◆また、女性の方が結婚により配偶者に合わせて居住地を移動することが多いのか、**女性は結婚も東京圏への転出の大きなきっかけ**となっている。
- ◆女性では、「**地元から離れたかったから**」が特徴的に高く、「**地元を離れたい**」と感じる何かしらの**不満や思い**を抱えた女性が、進学・就職・結婚などの大きな節目で東京圏へ転出している可能性がある。

II. 東京圏への転出と、地域における固定的な性別役割分担意識の有無等の関係

- 1 東京圏以外出身者に着目すると、現在も東京圏以外に住んでいる女性に比べて、**現在東京圏に住んでいる女性の方が、出身地域に固定的な性別役割分担意識等があったと感じている割合が高く、現住地域にあると感じている割合が低い。**
- 2 現在は東京圏以外に住んでいる女性も、「**出身地域にあった**」と感じる人の割合よりも「**現住地域にある**」と感じる人の割合の方が低いが、現在は東京圏に住んでいる女性の方が**差が顕著**。男性も同様の傾向にあるが、女性に比べると**差が小さい**。

→報告書中170～171ページ掲載

【東京圏以外出身の女性における、出身地域と現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無】

※東京圏居住層で、出身地域にあった（計）が高い項目を掲載。
※20%ポイント以上差がある項目を黄色色掛け。

	東京圏居住層		東京圏以外居住層	
	出身地域	現住地域	出身地域	現住地域
家事・育児・介護は女性の仕事	42.5%	23.5%	30.3%	26.5%
地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事	42.2%	18.4%	30.7%	25.1%
家を継ぐのは男性がよい	38.6%	15.3%	27.0%	22.1%
個人の価値観よりも世間体が大事	36.3%	17.6%	25.9%	22.7%
職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事	34.5%	20.2%	27.1%	24.3%

POINT

- ◆東京圏に転出した女性は、**出身地域に固定的な性別役割分担意識等があったと感じている割合が特に高い**ことが確認された。
- ◆時代による意識の変化により、全体として、固定的な性別役割分担意識等は薄れてきているが、東京圏に転出した女性は、**現住地域と出身地域の違いを特に大きく感じている**。
- ◆固定的な性別役割分担意識等が、**女性が地方を離れ、地元に戻らない要因**となっている可能性がある。

3. 東京圏への転出者の特徴 調査結果まとめ

Ⅲ. 現住地域や仕事の満足度、仕事について重視していること

- 1 東京圏以外出身者に着目してみると、男女ともに東京圏に居住している人の方が現住地域に満足している割合が高い。
特に、「仕事の選択肢の豊富さ」「収入の妥当性」「生活の利便性」「地域の活気や賑わい」などで差が大きい。加えて、女性では、「多様な価値観等の尊重」「新しい出会いやつながり」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」にも大きな差がみられる。
一方、「自然の豊かさ」は、東京圏以外に居住している人の方が、満足している割合が高い。
- 2 東京圏以外出身者の仕事に着目してみると、東京圏に居住している女性は、東京圏以外に居住している女性に比べて、「仕事内容や昇進・給与等について男女の差異がないか」「ワーク・ライフ・バランス」「柔軟な働き方ができているか」などに満足している割合が高い。男性はあまり差はない。
- 3 東京圏以外出身者が就職時に重視したことをみると、東京圏に居住している女性は、東京圏以外に居住している女性に比べて、「自立できそうか」「自分の能力を活かせそうか」「仕事を通じて自分が成長できそうか」などが高い。
また、仕事の検討に関する自分の意見についても、「都会で働いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」が、東京圏以外に居住している女性よりも高い。

→報告書中161~162,165~166ページ掲載

POINT

- ◆東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している男女は、仕事、生活の利便性など様々な項目に満足している。加えて、女性では、性別や年齢にかかわらず活躍できる環境、多様な価値観の尊重等にも満足している割合が高い。
- ◆仕事の面でも、自分の能力を活かし、成長し、キャリアアップを目指したいという思いがあり、性別に関係なく活躍できる環境に満足している割合が高い。

Ⅳ. 出身地域への愛着度、今後の居住希望地域

- 1 東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している人についてみると、現住地域に対する愛着度よりも、出身地域に対する愛着度が高い。特に女性は出身地域への愛着度が高い。
- 2 東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している男女は、「現在住んでいる地域に住み続けたい」は、全体に比べると高くはなく、「現在住んでいる地域以外に住みたい」は、特に女性で高い。将来は「地元に戻りたい」女性も1割いる。
- 3 将来は地方に住みたいとした男女について、住みたい理由では「ゆとりのある暮らしができそう」「自然環境が豊か」などが高い。一方不安に思うことについては、経済面、希望する仕事に就けるか、生活の利便性に加えて、特に女性では「人間関係や地域コミュニティへの不安」も高い。

→報告書中168,172,112~114ページ掲載

POINT

- ◆東京圏へ転出した男女は、現住地域(東京圏)の生活、仕事の満足が総じて高い一方で、地元への愛着も持ち続けており、「今後も東京圏に住み続けたい」意欲が高いわけではない。
- ◆将来、地方に住みたい男女は、「ゆとりのある暮らしができそう」「自然環境の豊かさ」などを理由に挙げている一方、仕事や経済面及び利便性への不安のほか、特に女性では「人間関係や地域コミュニティへの不安」も高い。